

繕いの解体新処

商店街の歴史と空間を護る保護膜としての壁のデザイン

敷地は大阪 鶴橋商店街。

第二次世界大戦時の建築疎開により生まれた空地に、戦後より闇市が開かれ、以後商店街へと成長した。75年経過した現代においても「手つかずの昭和20年代」と呼ばれる程、闇市時代の雰囲気と賑わいが絶えないまちである。



1 Purpose

鶴橋商店街の闇市的空間を継承しつつ持続可能な商いの場へと代謝させる

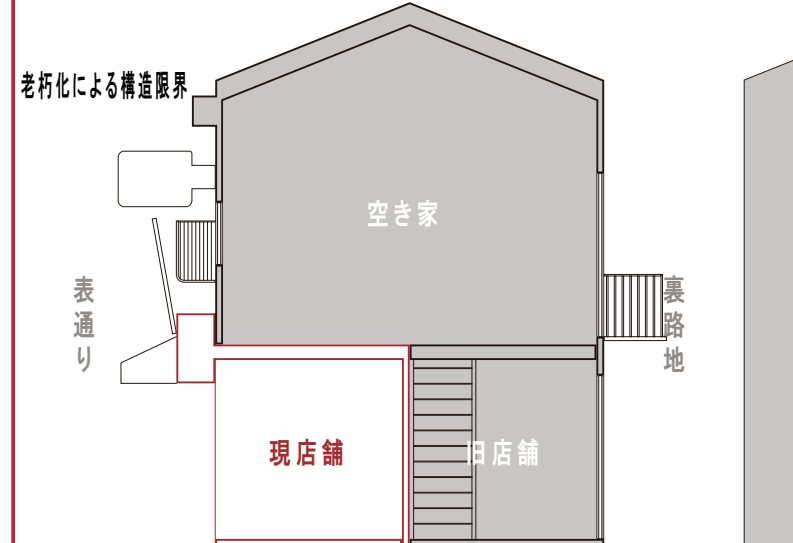
RESERCH about SOFT | 数十年間衰えることのない闇市的商い

調査の中で、現在でも鶴橋には闇市時代から脈々と続く受け継がれる即物的な商いとその集積による猥雑な空間があることが分かった。そして、闇市的商いは、あらゆる小さな余白に侵食し、空間を上書きしていく力強さが確認できる。



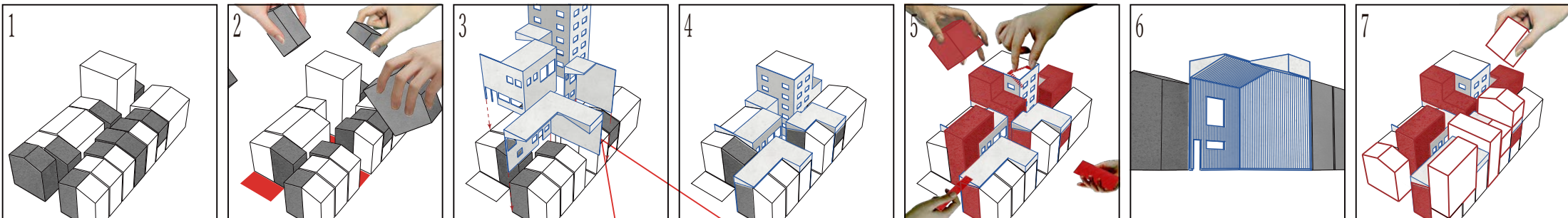
RESERCH about HARD | 十数年後に確実に倒壊する商店街の空間

闇市時代に一齐に建ち上がったバラック店舗は、建ち替わることなく、現在老朽化によって一律に構造限界を迎えている。また、構造限界を含め現在鶴橋に存在するハード面の問題は3つであることが分かる。



【RESERCH】→【PURPOSE】

闇市的商いの為の小さな余白を遺しながら、新しい躯体の空間に描き直す【壊し方】と【建て方】をデザインする。



闇市時代から残るバラック店舗の老朽化問題が全体で進む鶴橋商店街。

数か所解体して、工事現場とする。

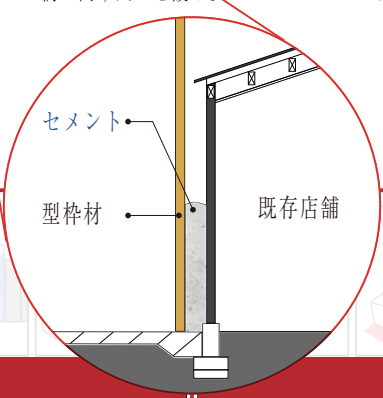
既存の外壁を型枠材の一面として、コンクリートの壁を造る。

既存店舗の補強壁・防火壁として鶴橋で商う人々を護る。

壁は、それを輪郭に闇市的高い小スケールの増改築を誘発する。

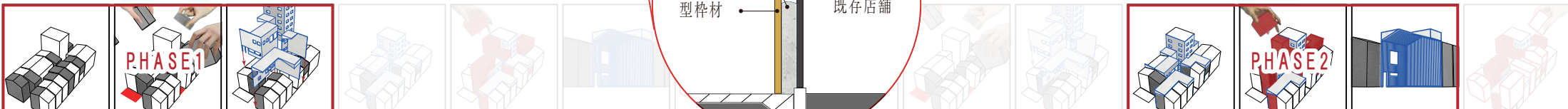
いずれ店舗が解体されるも「型」を転写した壁は残る。

永久に残り続ける壁は、画一的な再開発から鶴橋を守る保護膜となる。



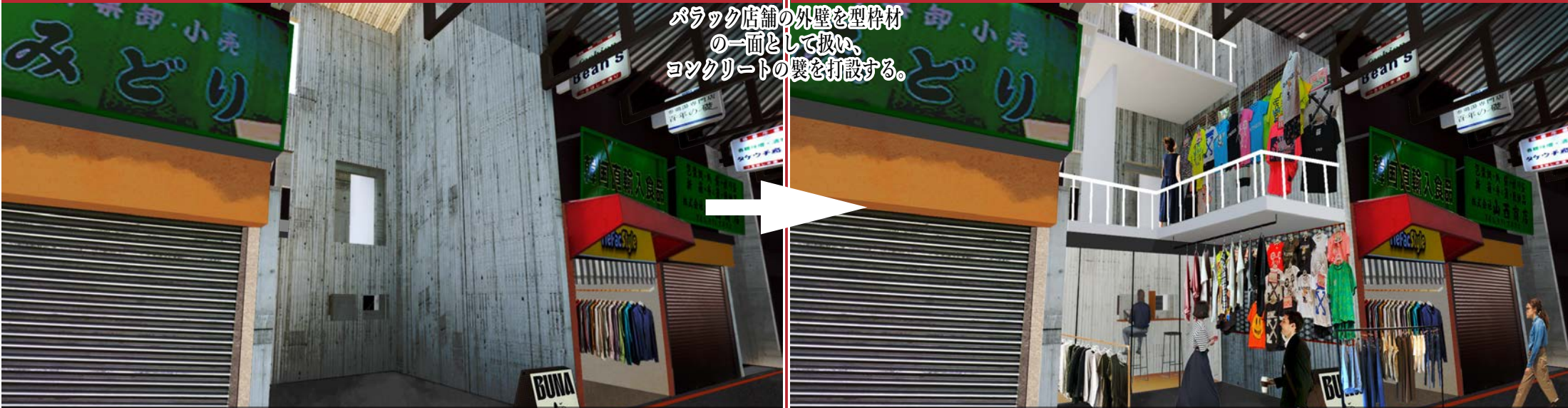
3つの保護膜として鶴橋商店街を護り、未来へ継承していく

3 Payoff



現存する老舗を補強する構造・防火の保護膜

【繕い】を育む小さな余白をまちに残すマイクロな保護膜



バラック店舗の外壁を型枠材の一面として扱い、コンクリートの壁を打設する。

店舗の延命措置として裏から補強する壁。かつてあった店舗の「型」と「テクスチャ」を模す。

いずれ、無垢な壁に闇市的高いが侵食する。店舗規模の小さな余白を単位にして空間は代謝する。



大規模再開発から商店街そのものを護るマクロな保護膜



そして、店舗の「型」を模した無数の壁が永久に遣り続けることで、いずれ来る大規模再開発から商店街そのものが護られる。むしろ、鶴橋はコンクリートに新たな機能を纏わせながら、更に発展していくと予想する。モデルケースとして、再開発の一般例であるオフィス空間が鶴橋に纏わりつくという予測設計を行った。

2060 鶴橋予想図

- 解体した店舗
- 新築・増設
- 補強壁



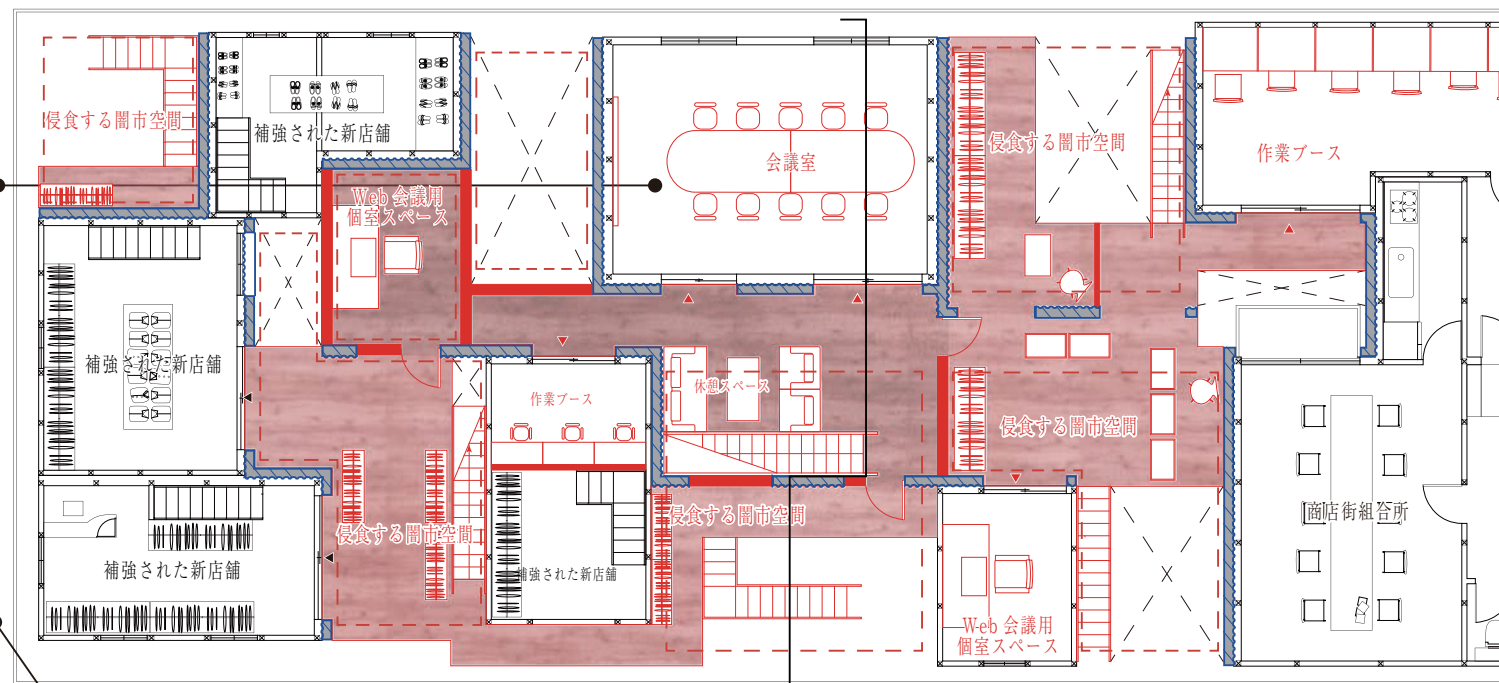
補強された店舗二階の会議室。掃出し窓を入口に人々は集う。



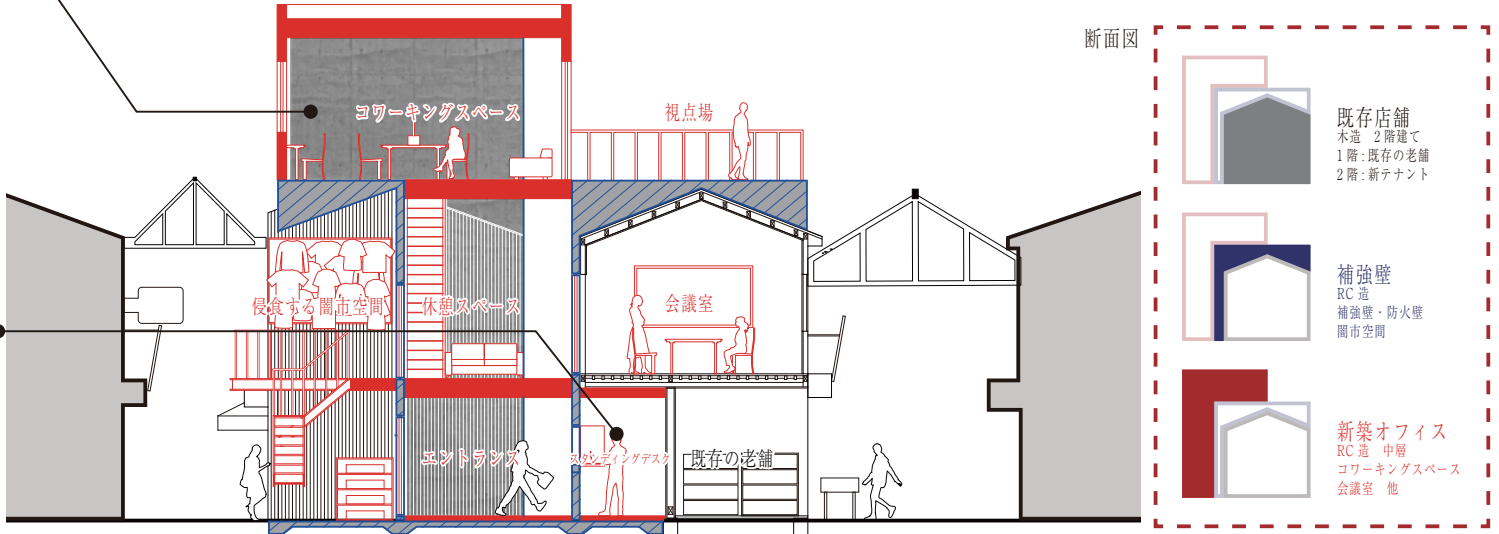
店舗と壁に囲まれた一人用の Web 会議スペース。



店舗の裏側に潜むスタンディングデスク。



二階区画部分平面図



断面図

- 既存店舗
木造 2階建て
1階: 既存の老舗
2階: 新テナント
- 補強壁
RC造
補強壁・防火壁
間市空間
- 新築オフィス
RC造 中層
ワークスペース
会議室 他